

令和2年4月15日



関川村立関川小学校 学校だより 令和2年度 1号

教育目標  
ゆたかな心  
たくましい体  
すすんで学ぶ  
関川の子

## インクルーシブ教育の実現に向けて

校長 見原 仁

4月7日、関川村長 加藤 弘様、教育長 佐藤 修一様をご来賓としてお迎えし、第11回入学式を行うことができました。新型コロナウイルス感染症対策のため、マスク着用という状況下ではありましたが、新1年生34名は、担任の先生から名前を呼ばれると、しっかりと返事をすることができました。

さて、入学式の前日、始業式で、2～6年生に以下のような内容の話をしました。一部を紹介します。



皆さんには、全校のお友達みんなを大切にしてほしいのです。

大切にするとはどういうことでしょうか。それは、その友達の良さを見つけ、その友達が苦手なことに気づき、その友達を助けてあげることです。

新1年生にも皆さんの中にも大勢の人の中にいるのが苦手なお友達や、お話を長く聞くのが苦手なお友達もいます。苦手なことがあるお友達は、みんな頑張っているのだけれど直せないことがあるのです。

私が一番お願いしたいのは、「このお友達はこういうことが苦手なんだな」ということに気付いてほしいということです。このことに気付くことができれば「なんでできないの?」「なんでやらないの?」という言葉は掛けなくなります。「これが苦手なんだね」「お手伝いしようか」というような声を掛けると思うのです。それがそのお友達を助けることにつながるのです。

次は、決してそのお友達をバカにしないこと。なぜなら、そのお友達は頑張っているのです。けっして怠けているわけではないのです。頑張っている人をバカにする。そんなことしていいのでしょうか。ダメですよ。

今年度、関川小学校の重点として「インクルーシブ教育の実現」を掲げました。インクルーシブ教育とは、ウィキペディアによると「人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的および身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み」(下線 校長)と示されています。これを実現するためには、人権感覚の醸成や、認め合い高め合う温かい人間関係づくりが欠かせません。これらをリンクさせ、日々の授業や学校生活の中で子どもも教師も人権感覚を磨き、温かい人間関係づくりの充実を図っていきます。

しかし、この教育の実現には、多くのハードルが待っているはずで、友達を傷つける言動やそれに関わるトラブル等の問題が起こると思います。しかし、その都度丁寧に対応し、教師も子どもも間違いを正し、粘り強く温かい人間関係づくりを進めていけば、できないことはありません。

そのためにも、保護者、地域の皆様から、学校に対してご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。